

(5) 授業実践**ア 題材名**

GO! 5-〇組 パワーアップ大作戦!! 「あいさつは、心をつなぐリボン」

イ 本時のねらい

気持ちのよい挨拶ができるように、自分の実態に合った目標を考え、自己決定をすることができる。

ウ 事前アンケート（対象児童：28 名）

挨拶について事前にアンケートを実施しました。結果は、表 1 のとおりです。設問⑦の回答を見ると、挨拶は必要なことだと十分に理解していることが分かります。また、設問④⑤を見ると、必要だという認識の高さに対して実践は十分できていないことがうかがえました。この認識の高さと実践の達成度の低さの差に着目し、問題意識を持たせようと考えました。

表 1 挨拶に関する事前アンケート結果

⑦	あいさつをすることは、生活の中で「必要だな」と思いますか？ とても思う 22 人 少し思う 6 人 あまり思わない 0 人 全く思わない 0 人
④	相手からあいさつをされて、うれしかったことはありますか？ はい 26 人 いいえ 2 人
⑦	ズバリ、「あいさつ」が得意である。 はい 15 人 いいえ 13 人
⑤	朝学校に来て、友達に「おはよう」とあいさつをしていますか？ いつもしている 11 人 時々している 10 人 あまりしない 6 人 全くしない 1 人
④	学校のろうかななどで先生や友達とすれちがうときや、教室に入ってくる先生たちに自分からあいさつをしていますか？ いつもしている 13 人 時々している 11 人 あまりしない 2 人 全くしない 2 人
⑦	「あいさつしてよかったな」「あいさつすると気持ちいいな」と思ったことはありますか？ はい 21 人 いいえ 7 人

エ 調査隊の活動

アンケート結果を基に、児童の視点で「どんな問題点があるのか」「どこに着目して実践すべきか」などを話し合い、学級全体に報告・提案する「調査隊」を結成しました。学級の生活上の問題を教師から投げ掛けるだけでなく、学級の仲間からの報告・提案という形で知ること、学級全体の問題意識を高めようと考えました。昼休みに希望者が集まって、アンケートの結果をグラフに表したり、みんなに一番伝えたいことは何かを考えたりしながら、原稿を作成しました（資料 2）。教師は、アドバイザーとして一緒に活動をしました。調査隊の児童の 1 人が設問⑦の結果に着目し、「クラスの 4 分の 1 の人が『あいさつをしてよかった』と覚えてないということだよ」と発言しました。そこで、「してよかった」と思える挨拶を自分たちが互いにやっていく必要性も伝えるべきだということになりました。教師が予想をしていた以上に、自分たちの問題として前向きに取り組む姿が見られました。



資料 2 原稿を作成する調査隊

オ 授業の様子

	学習活動 手立て（◆）	教師の働き掛け 研究の視点に関わる教師の働き
導入 (つかむ・さぐる)	1 前時までを振り返る。 2 調査隊からの報告で、アンケートの結果と気持ちをクラス全体で共有する。 ◆自分たちの問題だと認識できるように、電子黒板で調査隊からの報告動画を流した。	みんなが書いた振り返りは、全て精一杯頑張ったからこそ書けるもの、次につながる良い振り返りでした。中でも、もう一度基本に立ち返って、大事にしたい言葉がAさんの振り返りの中にあっただけで紹介しますね。Aさん、お願いします。 C：「難しい目標にしていたので、今度はもっと考えて自分に合う目標を立てようと思う」と書きました（抽出児A）。 T：調査隊のみんなは、何が問題だと伝えたかったのかな。 C：挨拶は、必要だと全員思っているのに、いつもしている人は、半分もいないことです。 C：「挨拶をしてよかった」とお互いに思えることです。 T：もったいないことだね。どうして思っているてもできないでいるんだろう。 C：恥ずかしいからです。 C：返してくれないと嫌だから。 C：声をどのくらい出せばいいかわからないから困ります。 T：道徳の授業で登場した愛ちゃんのことを思い出してみようか。始めから、挨拶ができる女の子だったかな。 C：いや、始めはできなかった。 C：急いでいたらできない。 C：するタイミングがよく分からない。 C：知らない人にするのは、ちょっとこわいと思います。 T：なるほど、しようと思ってもできない理由がこんなふうになり越えられない壁になっていて、「いつもできる!」とはならないんだね。 C：でも、難しさはいろいろあるけど、するしかないと思います。 T：そうだね。〇〇さんのやる気、すばらしいなあ。壁を乗り越えられそうだね。 挨拶をするときの難しさを児童の発言をカードにして積み上げ、必要だと分かっているけど、なかなか乗り越えられない壁のように示し、課題を「見える化」しました。

3 本時のめあてを知る。

今の自分よりも、あいさがパワーアップするために、自分に合った目標を決めよう。

展開
(見付ける)

4 挨拶ができるようになるために取り組めばよいことを話し合う。

◆「いつ」「どこで」「誰に」「どんなふうに」という視点で解決策を考えさせた。(2人→全体)

いつ	どこで	だれに	どのように
朝	教室	仲良しの友達	聞こえるように
昼休み	階段	友達	笑顔で、自分
授業中	廊下	先生(他校生)	そっと、自分
帰りの	くつ箱	他の学年	優しく、自分
帰りの	外	親い先生	とまてあいさつ
毎日	室内		相手の目を見て
			気もちよく

T:どんな挨拶ができるようになりたいか、考える材料集めをしよう。みんなのワークシートの「今、できていること」のところを見ると、「朝」「教室」「仲良しの友達」「聞こえるように」などが挙がっていたよ。他にもありそうだよね。

ただし、お願いします。もちろん家でもどこでも挨拶をパワーアップさせてほしいです。だけど今回は、お互いに頑張りが見えるようにするために、学校生活の中での挨拶の目標を決めるので、学校の中の「いつ」「どこで」「だれに」「どのように」を考えてください。



2人で考えてメモをしている様子



全体場で発表する様子

児童が発表した内容を表に整理し、何をどのように頑張ればよいかを「見える化」することで、自分が「今できていること」をどのように具体的にパワーアップさせるか考えることを促します。

終末
(決める)

5 バウンダリーワークを行う。

かなりがんばればできマス

もう少しがんばれば、できマス

今、できマス

T:では、今から仮の目標を書きます。表に書いてある言葉を組み合わせたり、自分で付け加えたりして考えましょう。

T:仮の目標が書けたら、バウンダリーワークをします。「もう少しがんばればできること」「かなりがんばればできること」を書きましょう。

○この時間の始めに紹介したAさんの振り返りを覚えているかな。難しすぎる目標にしてしまったことを悔やんでいたよね。自分に合った目標にするためにもっと考えなければいけない、と。

みんなも是非、今の自分をパワーアップさせるために、まずは「もう少しがんばればできること」をしっかり考えてみよう。



終末 (決める)	6 目標設定についてペアで話し合う。 ◆互いに聞き合い、良いと思ったら、OKとサインをさせることで、書いたことに自信を持たせ、目標に前向きに取り組もうとする意欲につなげた。 ◆ワークシートにも「2人でタイム」の進め方を示すことで児童にとって流れが分かりやすいようにした。	T：では、次にバウンダリーワークの後の「2人でタイム」をします。 ○「今できていること」に書かれていることが、ちゃんとできているなら、お互いにOKを書こうね。そして、「もう少しがんばればできること」が難しすぎたり簡単すぎたりしないかどうか、アドバイスをし合いながら話し合いましょう。その後、目標の決定となります。 OKのサインをもらう様子 アドバイスをし合う様子
	7 本時の振り返りをする。 ◆バウンダリーワークや「2人でタイム」によって、目標が自分に合うものになったという過程が書けている児童を紹介するようにした。 目標を発表している様子	T：では、自分の目標を誰か教えてくれないかな。それから、その理由もお願いします。 C：「必ず毎日、ろう下などですれちがうときに止まって相手の目を見てあいさつをする」を目標にしました。訳は、隣の〇〇さんが、「それがいいんじゃない」と言ってくれたので、自分に合っているんだな、と思ったからです。 C：私は「毎日笑顔で相手に聞こえるようにあいさつをする」にしました。〇〇さんからアドバイスをもらえたので決めました。 T：みんなで話し合ってバウンダリーワークをしたり、「2人でタイム」をしたりしたことで、自分に合った目標が立てられてようだね。挨拶の難しさの壁は、乗り越えられそうかな？ C：はい！ T：では、気合を見せてもらおうかな。挨拶は、声も大事。「あいさつパワーアップ大作戦」、自分の目標を達成できるように、頑張るぞ！ C：オー！！

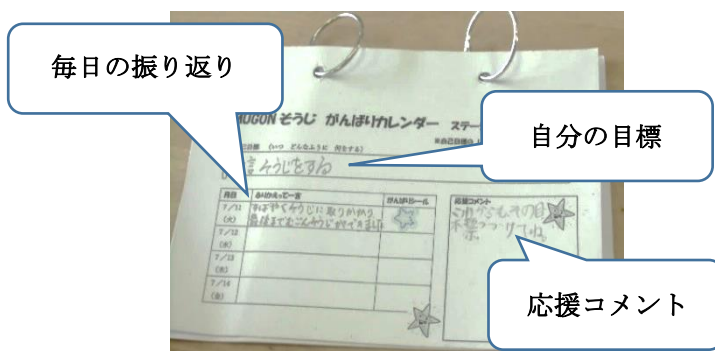
カ 事後指導

(ア) がんばりカレンダーによる個人の実践の振り返り

自分の目標に沿って実践する際の日々の振り返りに、ステージ1とステージ2に分けた2枚つりのがんばりカレンダーを使用しました（資料3、4）。それは、より高い目標に向かって挑戦することもできるようにしたいと考えたからです。したがって、児童にとって「もう少しがんばればできること」として設定した始めの目標が、もしステージ1で達成できたならば、ステージ2において「かなりがんばればできること」と思っていたことに挑戦してもよいというルールを設定しました。また、このがんばりカレンダーは、いつも自分の目標を確認できるように、卓上に立てておくことができるようにしました。また、「友達からの応援コメント」を書く欄を設け、目標を忘れていたり、頑張りが足りないときに励ましの言葉をもらったり、よく頑張っているときに称賛の言葉をもらったりすることができるようにしました。



資料3 がんばりカレンダーに記入する児童



資料4 がんばりカレンダー

(イ) 実践後に振り返る学級全体の実践の振り返り

自分の目標について10日間取り組んだ後「あいさつパワーアップ大作戦ふりかえりンピック」と題し、振り返り活動（1時間）を行いました。児童は、実践を振り返って、まず、「自分の目標が自分に合っていたかどうか」と「どのくらい実践することができたか」に対する自己評価（金・銀・銅）をしました（資料5）。次に、「友達の実践に対する他者評価（きり賞）」を行いました。

学級全体で互いの頑張りを称えます。その後、「何が足りなかったか」という視点を持って次につなげることを意識しながら話し合いました。最後に、学級の実践の宝箱に自分のメダルを貼りました（資料6）。この掲示物は個と集団の高まりが見えるもの、ひいては「自分だけで頑張るのではなく、学級の仲間と一緒に伸びていく」ということを実感しながら取り組むための下支えになるものだと考えました。



資料5 自分の実践を振り返り自己評価を書いている児童



資料6 宝箱にメダルを貼っている児童